

平成27年度

# 環境活動レポート



対象期間 : 平成27年5月～平成28年4月

発行年月日 : 平成28年7月1日

信幸プロテック株式会社

# 目 次

1	挨拶	1
2	環境方針	1
3	事業概要&認証登録範囲	2
4	実施体制	3
5	環境目標	4
6	環境活動計画	5
7	環境目標の実績	6
8	環境活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容	7
9	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、 訴訟の有無	8
10	代表者による全体評価と見直し結果	8

# 1 挨拶

エコアクション21の取り組みも4年目となり、我が社の中で取組を続けること、意識を続けることが日常のこととして定着しました。部門長や委員会メンバーを主軸として全員で活動してきた成果として喜ばしく思っています。

通常は中だるみが出てくる時期ですが、「水と空気とエネルギーを科学するエンジニアリング集団」を標榜する我が社では、太陽光発電設備の導入や薪ストーブの導入、高効率設備への入替営業活動など様々な側面から活動を推進することが出来ています。

まだまだ削減・改善できる部分はあるかと思いますが、今後も省エネ・小エネ・創エネの視点を忘れず、フロン排出抑制法への対応・周知など法律遵守も含め、自社だけでなく「関わるお客様全体に対してのエコアクション」の大きな視点で環境活動をすすめていきたいと考えております。

代表取締役社長

村松 守

## 2 環境方針

### 「私たちの手でかけがえのない地球を守りたい」

#### 《環境理念》

私たちは冷凍設備と産業設備に関わり、エネルギーを取り扱う者の使命として、省エネルギー設備の提案と事業活動のあらゆる分野で環境を守る行動に努め、地域の産業と人々の暮らしの役に立ち、なくてはならない存在となります。

全社員が「私たちは省エネルギー活動で地球を守り続けていきたい！」との信念を掲げ努力と貢献を続けます。

#### 《行動指針》

#### 1.温暖化ガス排出量の削減と省エネルギー活動の推進

- ・燃費改善に全員で努めます
- ・電力使用量の削減に努めます
- ・高効率機への更新提案で省エネルギー化の促進に努めます

#### 2.排水量の削減

- ・節水を心がけ最適消費で水資源を有効に使います

#### 3.廃棄物の削減と循環型社会を目指します

- ・廃棄物の削減、再使用、再生利用を常に考え行動します

#### 4.事業活動で取り扱うフロンガスおよび臭化リチウムについて、回収の推進を図ると共に適正処理に努めます

#### 5.事業活動を取り巻く環境関連の法規制を順守します

#### 6.エコアクション21ガイドラインに従って運営し、全社員及び社会に約束し、活動結果を公開します。

- ・常に整理整頓、再資源化・再利用を行い、廃棄物の削減に努めます
- ・社内活動「エコアクション」への社員全員参加を呼びかけ、社内整備・改善に努めます

制定年月日：平成24年7月1日

### 3 組織の概要

#### 1 名称及び代表者名

信幸プロテック株式会社  
代表取締役社長 村松 守

#### 2 所在地

本社 岩手県紫波郡矢巾町広宮沢第8地割5番地1

#### 3 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 サービス部（環境委員長）  
担当者 経営管理部

E-mail

TEL：019-697-7200  
TEL：019-697-7200  
info@srs.co.jp

#### 4 事業活動の内容

空調設備/産業設備（照明・給排水設備等）施工・保守・修理  
フロンガス・吸収液（臭化リチウム）回収処理  
食品・飼料工場車両消毒設備施工

#### 5 事業規模

資本金	10百万円		
製品出荷額（又は、販売額）	4	億円	
工事件数	199	件	
従業員	33	名	
延べ床面積	212.5	m <sup>2</sup>	

#### 6 認証登録範囲

全サイト・全組織・全事業活動が認証登録範囲  
産業廃棄物の収集運搬業は自社排出分のみ

#### 7 事業経歴・営業範囲

事業経歴

昭和62年 創業（有限会社 信幸冷熱サービス）

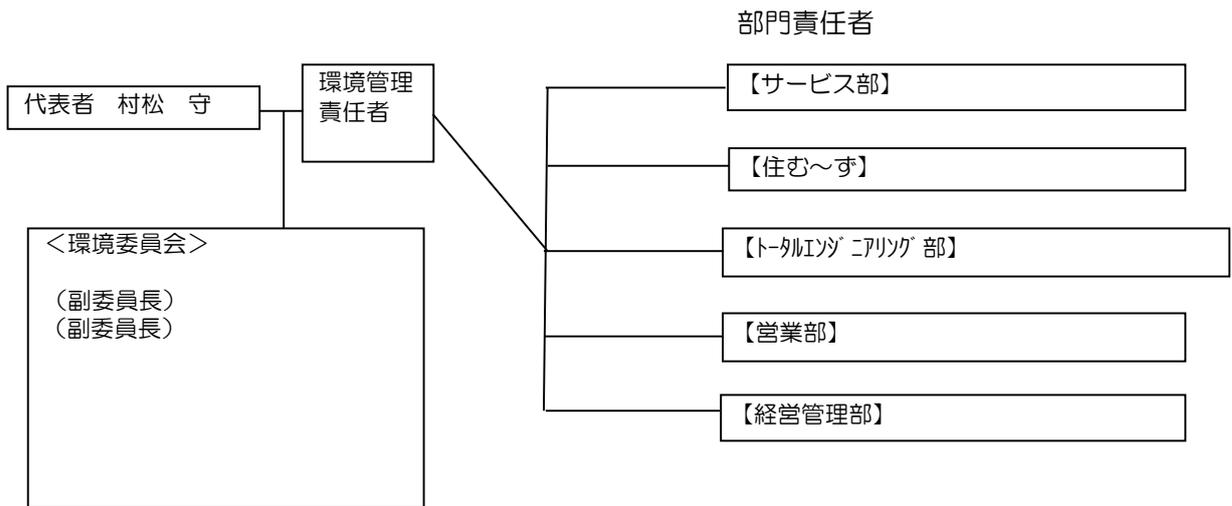
平成19年 信幸プロテック 株式会社に社名変更

平成27年 事業承継 常務取締役 村松守が代表取締役就任（村松 幸雄は取締役会長就任）

営業範囲

岩手県内全域

## 4 実施体制



### 責任者の役割

#### 代表者 村松 守

- ・環境管理責任者の任命
- ・環境保全に関する人員、設備、資金の設定
- ・環境方針の設定
- ・エコアクションシステムの見直し

#### 環境管理責任者

- ・エコアクション21 活動責任者
- ・進捗管理

#### 事務局（環境委員会）

- ・環境目標、計画の作成
- ・エコアクション21 活動推進
- ・データ収集、分析、整理
- ・システム運用上の事務管理
- ・レポートの作成、公開

#### 部門責任者

- ・環境活動の実施
- ・各人員への指示、管理

# 5 環境目標

## 取組項目

<b>①電気</b> -3% (-35kwh/年)			
★待機電力カット(退席時電源OFF)	退席時電源OFF ※パソコン・プリンタ・会議室テレビの主電源OFF		
★太陽光発電(4.8kw)による電力使用量抑制	電力使用量抑制を目的(余剰売電)		
★照明をLEDライトに交換	★夏場の温水洗浄便座の節電		
★薪ストーブの暖房利用(暖房器の電力抑制)	★冬場の冷蔵庫強度切替		
★ノーマル残業DAYの導入(夜間電力の抑制)	★シーズンオフ時のエアコン待機電力カット		
<b>②水</b> -1% (-3m <sup>3</sup> /年)			
★節水を心がける			
★軍手の洗濯回数減らす	【フロント】一定量溜ったら洗濯するルール		
★井戸水の利用(井戸水でも洗える洗剤使用)			
<b>③燃料</b> -3% 【ガソリン・軽油・灯油】			
★エコドライブの徹底	★急発進・急停車・アイドリング等しない・高速道路100km以下		
★タイヤの交換時期になったらエコタイヤへ	燃費改善に大きく貢献できることが判明	レギュラー	18,056 17,524
★シーズン用のタイヤを履く(※履きつぶしはNG)	燃費の悪化と事故の原因となる	軽油(車)	21,010 20,380
★タイヤの空気圧チェック	【毎月の車両点検時チェック(派遣両車様)】	軽油	224 217
★燃費改善車を毎月担当ドライバーがチェックシートに入力・年間の優良者を表彰		灯油	3,895 3,778
★FF暖房機の使用制限	温度設定=20℃		
★薪ストーブの活用	灯油の削減		
<b>④OA用紙(物質投入量)</b> -6%			
★PCFAXの積極活用			
★再生紙の活用	★監理監視による紙のトイクル推進		
★サイボクス導入による日報印刷の削減	今期は営業部(2名)トータルエンジニア部(5名)住むへず(1名)導入		
★住むへず請求書のデータ化			
<b>⑤廃棄物</b> -3% 【廃プラ・廃オイル・燃えるゴミ】			
★倉庫整備を強化し、在庫管理の改善	★わかりやすい在庫管理・ムダな購入をしない	標準地による管理	
★ゴミ置き場整理	★木材置き場・ガラ置き場・ダンボール・燃えるゴミ置き場の整理		
★紙のリサイクル	★ゴミ箱にOA用紙を捨てない	社外秘書室・古紙のいづれかにきちんと分類して処理	
<b>⑥CO2排出量削減・再生可能エネルギー導入の推進</b>			
★省エネルギー機器への入替を積極的に提案し、お客様設備の省エネ化促進	★省エネ機器販売上 +10%		
★太陽光発電設備工事・申請業務の積極推進、PR活動	★提案件数:10件/年		
★フロンガス回収	★回収物件数:60件/年		
★臭化リチウム回収	★処理物件数:10件/年		

### 【中期目標】

取組項目	2011.5.1~2012.4.30 基準年(2011年)	削減目標 2012	目標値 2012年	削減目標 2013	目標値 2013年	削減目標 2014	目標値 2014年	削減目標 2014	目標値 2015年
電力(kwh)	18,544	-3%	17,988	-3%	17,988	-3%	17,988	-3%	17,988
水(m <sup>3</sup> )	214	-1%	212	-1%	212	-1%	212	-1%	212
燃料(L)		-5%		-3%		-3%		-3%	
<ガソリン>	7,227		6,866		7,010		7,010		7,010
<軽油>	29,121		27,665		28,247		28,247		28,247
<灯油>	4,465		4,242		4,331		4,331		4,331
OA用紙(t) (物質投入量)	0.282	-6%	0.265	-6%	0.265	-6%	0.265	-6%	0.265
廃棄物(t)		-1%		-1%		-1%		-1%	
<燃えるごみ>	3.39		3.36		3.36		3.36		3.36
<廃プラ>	2.7		2.67		2.67		2.67		2.67
<廃オイル>	3.5		3.47		3.47		3.47		3.47
環境配慮商品 販売売上(万円)	¥3,259	10%up	¥3,585	10%up	¥3,585	10%up	¥3,585	10%up	¥3,585

## 6 環境活動計画・実施状況

当社では、環境方針に基づき二酸化炭素、廃棄物、水使用量を削減し、環境目標を達成するため、従業員が一丸となって省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクル及び節水等に取組んでおります。取組の実施状況の評価結果は、表3のとおりです。

表3 主な環境活動計画の内容と取組結果

項目	取組内容	評価	備考	
二酸化炭素排出量の抑制	照明	不要な照明OFF	○	
		事務所内照明LED化	○	
	冷暖房	エアコンの使用制限	○	温度28度以上又は湿度70%以上
		薪ストーブの暖房利用	○	
		クールビズ・ウォームビズの推進	○	
		グリーンカーテンの設置による遮光・遮熱	○	
	節電	扇風機の活用	○	
		スイッチ付OAタップによる待機電力カット	△	
		太陽光発電による電力使用量削減	○	
	車輛その他	ノー残業DAYの導入（夜間電力の抑制）	△	毎週(土)実施
		エコドライブの徹底	○	燃費シート入力
		タイヤの交換時期にエコタイヤに交換。時期に合ったタイヤを使用	○	
		タイヤの空気圧チェック	○	月一回点検
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物	燃費改善率の記録、優良者表彰	○	年一回表彰
		購入前に必要性和廃棄方法の再確認	○	
		倉庫整備を強化し、在庫管理の改善	△	
		ゴミ置き場整理	○	
		経理帳簿のデータ化、OA用紙のリサイクル、裏紙の活用	○	
	産業廃棄物	PCFAXの積極活用	○	
		購入前に必要性和廃棄方法の再確認	△	
		倉庫整備を強化し、在庫管理の改善	○	各倉庫の整備に着手中
		分別を徹底する	○	
		節水・排水	節水を心がける（全体周知）	△
節水・排水	洗濯回数の見直し（少量時は回さない）	○		
	節水型トイレへの更新検討	—	新社屋建設時に実施	
	井戸水の利用	○	事務所外すべて井戸水利用	
	グリーン購入	消耗品購入時「グリーンマーク」表示のある商品を購入する	○	
製品・サービスに関する取組	高効率機器への入替を積極的に提案し、省エネ化の促進	○		
	太陽光発電他自然エネルギー活用商品の積極提案	○		
	フロンガス・臭化リチウム回収	○		

## 7 環境目標の実績

当社では、環境目標の達成状況の確認・評価を行いました。

今回は、平成27年5月から平成28年度4月までの実績についての評価結果を報告いたします。

- 電力の使用については、社内の照明設備の更新もあり達成できた。  
太陽光発電設備に加え薪ストーブを設置し冬場の電気量を大幅に削減することができた。
- 化石燃料の使用量は、仕事の量と共に走行距離が増えておりガソリンの使用量は増加している。  
今後は設定目標の見直しにより業務拡大においても達成・向上可能な目標を立てる。
- 一般廃棄物は、工事物件数と共に量が増えている状態となっている。目標の見直しが必要。
- 産業廃棄物は、廃棄物を有価物として引き取って頂いており目標達成となっている。
- 排水量は、未達成となっており従業員が増えた事が原因だと思われる。  
節水は十分できていると思われるため、目標設定について見直しを図る。
- 環境配慮製品の販売については、営業部による積極的な提案活動が何れも目標達成となった。

表4 当該年度の環境目標の達成状況等

項目	単位	基準年	削減(増 加率)	2012年	2013年	2014年	当該年度		環境目標の 達成状況
		実績値		実績値	実績値	実績値	実績値		
1、電力の二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	7,955	3%削減	8,596	9,117	6,452	7,717	6,535	達成
2、燃料の二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	104,193	3%削減	111,469	95,320	104,347	90,274	100,665	未達成
3、二酸化炭素合計	kg-CO <sub>2</sub>	112,148	—	120,065	104,437	110,799	97,991	107,200	-
4、一般廃棄物	t	7.24	3%削減	7	6.24	7.87	7.02	11.14	未達成
5、産業廃棄物	t	6.15	3%削減	3	3.37	2.34	6.10	2.23	達成
6、総排水量(節水)	m <sup>3</sup>	214	1%削減	208	228	213	212	219	未達成
7、環境配慮製品・商品の製造・販売	万円	3,259	10%増加	4,415	6,823	16,138	3,585	10,351	達成

注：購入電力の二酸化炭素排出係数は環境省報道発表（H24/1）の東北電力実排出係数 0.429kg-CO<sub>2</sub>/Kwを使用

### 環境活動の状況



＜電気量削減＞グリーンカーテン設置



＜電気量削減＞LED交換



＜地域貢献＞周辺清掃活動



＜社員教育＞事務所内

## 8 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容

### 1. 取組結果の評価

表5 主な環境活動計画の内容と取組結果

項目	実施状況の評価	備考	
二酸化炭素排出量の抑制	照明	○ 事務所内の照明をLED化し、会社の看板照明などPR効果のある照明を新設しながら電力削減ができたことは評価できる。	薪ストーブの使用が電力及び燃料の削減に効果を発揮した。
	冷暖房	○ 薪ストーブを導入する事で、灯油の使用量を削減できた。また、冷房をつける温度及び湿度を決め無駄な使用が減ったことが削減につながっている。	
	節電	○ 太陽光発電はもちろん、効果の大きい改善策ではなく、全員の節電行動など日々できることの積み重ねで効果を出していることを高く評価する。	
	車輛その他	○ 業務の性質上、仕事が増えれば燃料の削減が難しい。今後は設定目標の見直しにより、業務拡大においても達成・向上可能な目標を立てることで社員のモチベーションを維持してほしい。	
排出物抑制の	OA用紙	○ 経理帳簿及び一部社内書類のデータ化、裏紙の活用により削減されたことを評価する。	ウェブ上でのスケジュール管理及び社内書類の共有によりOA用紙の削減につながった。
	一般廃棄物(OA用紙以外)	△ ゴミ置き場の整備を行い、以前より分別が分かりやすくなった。工物件数と共に量が増えている状態で取組と目標のバランスが悪い、目標の見直しが必要。	
	産業廃棄物	○ 廃棄物を有価物として引き取ってもらっている。お互いに有益である業者との付き合いが功を奏している。	
排水・節水	用水・排水	○ 浄化槽を利用している条件下では一定以上の排水は必須なので、従業員が増えることに比例して水の使用量は増え続けていると考えられる。抜本的な対策が立てにくければ、目標設定について見直しを図ることを望む。	
グリーン購入	○ 事務用品の購入時は意識している。		
製品・サービスに関する取組(環境配慮型製品・商品の販売)	○ 自社で出来る環境貢献活動を良く意識し、普及に努めていることを高く評価する。目標にカウントされる商品でなくともより一歩踏み込んだ提案はできないか、お客様へ提供できる情報はないかさらに意識の向上を望む。		

○：評価できる、△：まずまず評価できる、×：評価できない

### 2. 次年度の取組内容

#### (1) 二酸化炭素排出量の削減

事務所内レイアウト変更に伴うコンセントタップの整理  
週一回のノー残業DAY

#### (2) 廃棄物の排出削減

在庫管理の強化を図るため、倉庫整備を計画的に進める  
顧客情報書類のPDF化

#### (3) 節水

洗濯回数の削減の継続、井戸水の利用、男子トイレにフラッシュバルブ取付

#### (4) 製品・サービスに関する取組

環境配慮製品の販売促進を継続  
太陽光発電設備工事・申請業務の積極推進、PR活動  
フロンガス・臭化リチウム回収件数アップ

#### (5) その他の取組

## 9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受けるフロン回収破壊法など、環境関連法規について遵守状況をチェックしたところ違反はありませんでした。

また、過去3年間、関係当局からの違反等の指摘、住民等からの苦情、訴訟等について、問題がありませんでした。

## 10 代表者による全体評価と見直しの結果

見直し項目	評価	改善及び指示
1 環境方針	改正フロン法の周知に関して、県内一の体制を作ったことを評価するも業界に先駆けて顧客に周知できる体制が整ったことを評価する。	社歴の浅い社員を中心にまだまだ危険物への知識や改正フロン法への知識不足が見られるので、全体周知活動を継続してほしい。
2 環境目標	高い意識のもと、高水準で目標達成ができた項目が多いことを評価する。	設備業である自社の強みを、社内の数値削減だけでなくサーモグラフィー診断や電力量測定などで顧客へのサービスや提案にも活かしてほしい。
3 環境活動計画及び環境経営システム	5S先進企業の見学を通して、事務所内で改善提案が目立ち、大変良いものと評価する。	自社が先進企業として他社の見学を受け入れられるようなレベルまで到達してほしい。
4 その他 ( )	事務所近隣の清掃活動、産業まつりを通しての地域貢献は素晴らしいのでぜひ続けてほしい。	清掃活動は回数を増やす、範囲を広げるなどしてメンバー全員が機能するような活動にしてほしい。
<b>5 全体評価</b> 数年経過する中で、取組はすっかり定着したが、設備工事業として地域に貢献しており、委員会での活発な取り組みができて以上、もう一段高いレベルの取組内容を検討する時期にいきているように思う。具体的には顧客教育と言えるレベルの提案及び商品紹介、電力測定やサーモグラフィー写真など見える化を通して地域全体の環境負荷を減らすことが考えられる。自社のみならず、地域に貢献できる視点での取組を期待する。		

上記のとおり指示します。平成28年7月31日

代表者 村松 守